



## 富士の嶺に 降り置く雪は 六月(みなづき)の 十五日(もち)に消ぬれば その夜降りけり

6月の万葉集 巻3-320 高橋虫麻呂  
(富士の嶺に降り積もる雪は夏も末の六月の十五日に消える  
かと思うと、また夜に降ってきた。)

### 「守破離」の考え方が自学自習の根幹!

近畿地方にもまもなく梅雨入り宣言がされる頃となりました。役場の周辺に植えられていた小麦も収穫の時期となり、田植えも始まろうとしています。

新型コロナウイルス感染症も下げ止まりの様相を呈し、町内の感染者も一桁の状況が続いています。今年度は、感染予防対策を徹底した上で、できる限り学校行事等の教育活動を進めてほしいと校長会や園長会で話しています。

この2年間は、ほとんどの学校行事、園行事が縮小や中止せざるを得ない状況になり、子どもたちや先生方、さらには保護者の皆さんにとっても、辛く寂しい期間であったと思います。特に子どもたちにとって、校外学習や修学旅行、運動会、体育大会などの学校行事等の体験は社会性を育み、達成感や成就感を得るもとても大切な取組です。3年前のような状況に戻ることはできませんが、できる範囲で「子どもたちのために」なる取組を進めてほしいと願っています。



ところで、今の小中学校は平成29年に告示された学習指導要領によって授業が進められています。この学習指導要領で謳われているのが「主体的・対話的で深い学び」であり、いわゆるアクティブ・ラーニングであることは周知のことと思います。その中で、私は「主体的な学び」が子どもたちにとって、もっとも大切な学びの一つだと思っています。

子どもたち一人一人が、学ぶことに興味をもち、毎時間、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って、次につなげる主体的な学びが実現できているかが問われており、子どもたち自身が自分の力で学びを進めていくことが肝要で、いわゆる自学自習と置き換えることもできます。

かつて、兵庫教育大学長だった梶田氏は、自学自習とは、文字通りに言えば、他の人から教えてもらわないで自分で学びを進めていくことですが、思いつくままにやりたいことだけを学んでいってもだめで、本当の自学自習の力を育てていくためには「守破離」の心がけをもつことがどうしても必要だと言われています。



「守破離」とは、武道や茶道、芸事などの稽古において強調されてきた考え方で、もとは千利休の訓をまとめた『利休道歌』にある、「**規矩作法 守り尽くして破るとも離るとも本を忘るな**」を引用したものとされています。

修業に際して、まずは師匠から教わった型を徹底的に「守る」ところから修業が始まります。師匠の教えに従って修業・鍛錬を積み、その型を身に付けた者は、師匠の型はもちろん他流派の型なども含め、それらと自分とを照らし合わせて研究することにより、自分に合ったより良いと思われる型を模索し、試すことで既存の型を「破る」ことができるようになります。さらに鍛錬・修業を重ね、かつて教わった師匠の型と自分自身で見出した型の双方に精通し、その上に立脚した個人は、自分自身とその技についてよく理解しているため既存の型に囚われることなく、言わば型から「離れ」て自在となることができます。

梶田氏は、この「守破離」を教育に置き換えると、まず「守」は、各教科・科目で学んでいくべき学習課題の道筋を忠実にたどっていくこと。「破」は、何かについてある程度まで基礎的な学びができたならば、他の考え方や資料にも目を通して見て、周囲の人たちと率直な対話を試みて自分なりに考え直してみる。そして「離」は、学びが進んでいくにつれて常に念頭に置くべき可能性として自分自身の中に本当に根拠があるかどうかを慎重に考えていくことだと示唆しています。こうした「守破離」の考え方が、まさに本来の自学自習の根幹をなすべきものだと言っています。

子どもたちには、各学校において、授業を通じての主体的な学びを進めてもらうとともに、一人一人にあった自学自習の力を付けてほしいと強く願っています。

## 教育委員会関係団体の取組

### 広陵町古文化会の巢山古墳を守る取組!

5月22日(日)の8時から巢山古墳において、広陵町古文化会主催の慰霊祭とともに、古文化会の皆さんによる巢山古墳墳丘部周辺の草刈りが行われました。

巢山古墳は皆さんもご存知のように、国の特別史跡(全国に63件)に指定され、墳丘部の全長が220mの前方後円墳で、馬見古墳群の中でもっとも大きく、古墳時代中期初頭の葛城の王墓と考えられています。かつては私も小学生の時に古墳の墳丘部に入ったような記憶はあるのですが、今は一般の人は入れないため、草刈りのために入らせてもらった



わけですが、50数年ぶりに墳丘部に足を踏み入れたことに感激していました。

栗山古墳は、広陵町に数多くある文化財の中でも特に有名なものですが、他に重要文化財として百済寺三重塔や与楽寺十一面観音立像などがあります。町内の数多くの文化財をボランティアとして守っていただいているのが古文化会の皆さんで、本当に頭が下がる思いで、感謝の気持ちでいっぱいです。

## チャリティギターリサイタルに感動！

5月22日(日)の午後からかぐや姫ホールにおいて、広陵町婦人会の総会が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で対面での総会として3年ぶりの開催となり、古田会長さんをはじめ、久しぶりに皆さんの元気な顔が見られました。



総会は、令和3年度の事業報告、決算報告並びに監査報告、令和4年度の事業計画、予算案が審議され、全会一致で承認されました。

総会後には、婦人会主催で奈良県に避難されているウクライナの人たちを

支援する目的でチャリティギターリサイタルが開催されました。

その演奏者は、三郷町在住の宮川春菜さんで、日本ギターコンクールにおいて、小学校4年生から5年連続で金賞を受賞されたほか、日本ギター協会賞(優勝)など、全国のクラシックギターコンクールにおいて、10代で



ありながら数々の賞を受賞されたほか、日本ギター協会賞(優勝)など、全国のクラシックギターコンクールにおいて、10代で

この日の演奏曲は、皆さんも聴かれたことがある「アルハンブラの想い出」や「禁じられた遊び」など8曲でした。宮川さんが演奏する1曲1曲には、自身の熱い想いとともにも全身全霊がこめられ、ホールにいるすべての人の心に響き渡り、深い感動を与えていました。私自身も、コロナ禍の中、生の演奏などなかなか聴けなかったことから、最高級のギターテクニックによる演奏は、心が洗われる想いと同時に本当に癒やされました。もっとも聴きたい衝動に駆られながらのあつという間の1時間でした。

宮川さんは、このあと居を東京に移して、プロに転向されるそうです。すばらしい演奏を聴いて、私も一人のファンになりたいと思いました。

## 教育委員会の取組

### 3年ぶりの学校訪問・園訪問！

5月18日(水)から5月30日(月)の間に、3年ぶりに教育委員さんや県の管理主事、町の指導主事の先生方とともに春季の学校訪問・園訪問をしました。

訪問の目的は、校園長さんの学校経営、園経営への想いなどのようなビジョンをもって先生方や子どもたちを指導されているのか、また、先生方の授業や保育の様子を参観し、気づいたことを懇談会で話し合うこと、そしてもう一つが、学習指導要録

などの子どもたちに関わる様々な書類などがきっちりと整理されているかどうかです。

どの学校でも園でも、子どもたちは元気いっぱいの大きな声で「おはようございます。」「こんにちは」とあいさつしてくれてとても清しい気持ちにさせてもらいました。



これまでの学校訪問では2時限の授業を参観していましたが、今回はコロナ禍のこともあり、1限だけの参観でしたが、どの学校の子どもたちも先生方の授業を熱心に受けていました。

私の授業を見る一つの視点は先生方が授業のはじめに、黒板等にこの時間の「めあて(目標)」を書いているか、また、授業の終わりには「まとめ(振り返り)」ができていないか、そしてもう一つがICT教育をどれだけ進めているかで、特に今回はchromebookを授業の中でどれだけ使いこなしているのかでした。

「めあて(目標)」については、およそ9割の先生方が書いておられ、ようやく浸透してきた感があります。chromebookの活用はやはり、学年が上がるに従って活用されている状況で、中学校では7割近くがロイロノートなどのアプリを使っている授業がなされていました。



園訪問で一番印象に残っているのは、どの園でも入園して2か月あまりしか経っていない3歳児が早くも集団生活に順応し、先生方の言われることを素直に聞いていた様子です。

## コーディネーター養成研修会を実施！

6月2日(木)午後から、学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の推進に伴う「地域と学校の連携・協働活動のためのコーディネーター養成研修会」を役場大会議室で実施しました。

講師には、全国体験活動ボランティア活動総合推進センターコーディネーターで亜細亜大学非常勤講師もされている橋本洋光先生から講義とワークショップの指導を受けました。参加者は各学校のCSの地域コーディネーター、校長・教頭のどちらか1名、CSの地域担当教員、そして教育委員会の部長、指導主事、生涯学習文化財課係長、協働のまちづくり推進課係長の28名でした。

講義は、「地域における学校と地域の連携・協働活動の意義とコーディネーターの役割について」と題して、国の方針として「開かれた学校づくり」から「社会に開かれた教育課程」へと移行してきたことやCSと地域学校協働本部は車の両輪であること、そして橋本先生が全国を回って様々な事例を経験し、それらを別の地域に還元してきたことなどを話していただきました。私はCSについては、これまである程度学習してきたものの橋本先生の話聴いて「目からうろこ」の状態でした。



その後1組4~5人のグループでのワークショップとして、一人一人が講義を聴いて気づいた点を共有しての意見交換がなされました。とにかく、CSを中心とした地域とともにある学校づくりをより一層進めたいと強い思いを持ったひとときでした。